
5. 参照系

5.1. 時間参照系

地図情報レベル 2500 データの時間参照系は、参照系識別子：GC / JST を採用する。

別称：グレゴリオ暦/日本標準時

5.2. 座標参照系

地図情報レベル 2500 データの座標参照系は、参照系識別子：JGD 2000 / Zone No.(X, Y) を採用する。

別称：日本測地系 2000/平面直角座標系ゾーン番号(平面直角座標系 X 座標,平面直角座標系 Y 座標)

6. データ品質

6.1. 品質要求

データ集合の適合性に対する要求事項を示す。

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲 (上位型の地物は、 その下位型の地物も適用範囲に含む)	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
完全性	過剰	公園、行政区、行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）と、参照データ（公園及び行政区の元資料、座標成果）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合内に存在する過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 <ul style="list-style-type: none"> 参照データと対応関係がとれない地物インスタンスがデータ集合内に存在する場合。 データ集合内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。本体を除き、重複している余分なデータの個数をすべてエラーとして数える。 誤率（％）＝（過剰なデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100	過剰なデータの割合：0%
		道路施設、鉄道施設、建物、水域（河川・湖池等） 公園を除く都市施設パッケージの地物	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）を 25m メッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての 25m メッシュに対する、過剰なデータを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 25m メッシュの良不良の判定は、25m メッシュごとにデータ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等の元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、次の場合、不良なメッシュとする。 <ul style="list-style-type: none"> 参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等）と対応関係がとれない地物インスタンスが一つ以上、25mメッシュ内に存在する場合。 25mメッシュ内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。 応用スキーマの地物の定義（取得基準）に適合しないデータが当該地物として作成されている場合。但し、空間データの構成上必要と判断された上で作成されているものは、過剰なデータとみなさない。 過剰なデータ（地物インスタンス）が複数の25mメッシュにまたがる場合は、関係する25mメッシュすべてを不良と判定する。 誤率（％）＝（不良な 25m メッシュ数／検査した 25m メッシュの総数）×100	過剰なデータを含む不良な 25m メッシュの割合：5%以内
		境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構田等、場地、植生、変形地、	検査対象範囲のデータ集合（地図情報レベル 2500 データ）内に存在する等高線の過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 <ul style="list-style-type: none"> 同じ計曲線を表すデータが重複して存在する場合、計曲線の過剰なデータとして、その本数（1本を越えた本数）を数える。 計曲線と計曲線の間5本以上の主曲線が存在する場合、主曲線の過剰なデータとして、その本数（4本を越えた本数）を数える。 主曲線と主曲線の間2本以上の補助曲線が存在する場合、補助曲線の過剰なデータとして、その本数（1本を越えた本数）を数える。 誤率（％）＝（過剰なデータ数／本来作成すべき等高線のデータ数）×100	過剰なデータを含む不良な 25m メッシュの割合：10%以内
		等高線	検査対象範囲のデータ集合（地図情報レベル 2500 データ）内に存在する等高線の過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 <ul style="list-style-type: none"> 同じ計曲線を表すデータが重複して存在する場合、計曲線の過剰なデータとして、その本数（1本を越えた本数）を数える。 計曲線と計曲線の間5本以上の主曲線が存在する場合、主曲線の過剰なデータとして、その本数（4本を越えた本数）を数える。 主曲線と主曲線の間2本以上の補助曲線が存在する場合、補助曲線の過剰なデータとして、その本数（1本を越えた本数）を数える。 誤率（％）＝（過剰なデータ数／本来作成すべき等高線のデータ数）×100	等高線の過剰なデータの割合：10%以内
		地図記号、地図情報レベル 2500 注記	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）と、参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）に含まれる記号及び注記データ同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合内に存在する過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 <ul style="list-style-type: none"> 参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）と対応関係がとれない余分な記号及び注記がデータ集合内に存在する場合。 地物インスタンスとの関連をもたない記号及び注記が、データ集合内に存在する場合。 誤率（％）＝（過剰なデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100	記号及び注記の過剰なデータの割合：10%以内

品質要求（続き）

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲 (上位型の地物は、 その下位型の地物も適用範囲に含む)	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
完全性 (続き)	漏れ	公園、行政区、行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）と、参照データ（公園及び行政区の元資料、座標成果）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合から漏れているデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 参照データと対応すべき地物インスタンスが、データ集合内に存在しない場合。 誤率（％）＝（漏れのデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数）× 100	データの漏れの割合：0%
		道路施設、鉄道施設、建物、水域（河川・湖池等） 公園を除く都市施設パッケージの地物	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）を 25m メッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての 25m メッシュに対する、データの漏れを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 25m メッシュの良不良の判定は、25m メッシュごとにデータ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等の元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、次の場合、不良なメッシュとする。 ・ 参照データ（空中写真、現地調査資料等の元資料）と対応すべき地物インスタンスが、25mメッシュ内に存在しない場合。取得基準に適合するデータの欠落は、理由の如何に関わらず漏れのデータとして、その個数を数える。 ・ 複数の25mメッシュにまたがるデータ（地物インスタンス）が漏れている場合は、関係する25mメッシュすべてを不良と判定する。 誤率（％）＝（不良な 25m メッシュ数 / 検査した 25m メッシュの総数）× 100	データの漏れを含む不良な 25m メッシュの割合：5%以内
		境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、	検査対象範囲のデータ集合（地図情報レベル 2500 データ）と、参照データ（空中写真、現地調査資料等の元資料）と対応すべき地物インスタンスが、25mメッシュ内に存在しない場合。取得基準に適合するデータの欠落は、理由の如何に関わらず漏れのデータとして、その個数を数える。 ・ 複数の25mメッシュにまたがるデータ（地物インスタンス）が漏れている場合は、関係する25mメッシュすべてを不良と判定する。 誤率（％）＝（漏れのデータ数 / 本来作成すべき等高線のデータ数）× 100	データの漏れを含む不良な 25m メッシュの割合：10%以内
		等高線	検査対象範囲のデータ集合（地図情報レベル 2500 データ）から漏れている等高線データ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 標高差 ± 20m の等高線の間、計曲線が存在していない場合。 ・ 計曲線と計曲線の間、3本以下の主曲線しか存在しない場合、主曲線データの漏れとして、その本数を数える（例えば3本であればエラーは1つ、2本であればエラーは2つとなる。）。 誤率（％）＝（漏れのデータ数 / 本来作成すべき等高線のデータ数）× 100	等高線データの漏れの割合：10%以内
		地図記号、地図情報レベル 2500 注記	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）と、参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）に含まれる記号及び注記データ同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合から漏れているデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）とする記号及び注記がデータ集合内に存在しない場合。 誤率（％）＝（漏れのデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数）× 100	記号及び注記データの漏れの割合：10%以内
		図化機測定による標高点	検査対象範囲のデータ集合（地図情報レベル 2500 データ）から漏れている図化機測定による標高点データ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 250m × 250m（図上10cm × 10cm）に分割したメッシュ内に含まれる図化機測定による標高点データが6点に満たない場合、漏れのデータとして、その個数を数える。 ・ 250m × 250m（図上10cm × 10cm）に分割したメッシュ内に含まれる図化機測定による標高点、基準点及び等高線数値の注記を合わせた個数が10点に満たない場合、図化機測定による標高点の漏れとして、その個数を数える。 誤率（％）＝（漏れのデータ数 / 検査対象範囲に存在すべき図化機測定による標高点のデータ数）× 100	図化機測定による標高点データの漏れの割合：10%以内

品質要求 (続き)

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲 (上位型の地物は、 その下位型の地物も適用範囲に含む)	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
論理一貫性	書式一貫性	データ集合全体	データ集合の書式 (フォーマット) が、整形形式となっていない箇所 (XML 文書の構文として正しくない箇所) の割合 (誤率) を計算する。データ集合は、整形形式の XML 文書 (Well-Formed XML) でなければならない。	XML 文書の構文のエラーの割合 : 0%
	概念一貫性	データ集合全体	<p>符号化仕様が規定する XML スキーマに対する、データ集合に存在する矛盾の割合 (誤率) を計算する。データ集合は、妥当な XML 文書 (Valid XML document) でなければならない。</p> <p>XML スキーマに対する XML 文書の妥当性の検査に加え、次の項目についても検査する。</p> <p>地図情報レベル 2500 データ集合パッケージに関する検査項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 地物関連によって参照する地物インスタンスの型 (地物型) が、応用スキーマが規定する地物型と合致しない場合、エラーとする。 <p>空間スキーマプロファイルに関する検査項目</p> <ul style="list-style-type: none"> データ集合内のどの地物インスタンスからも参照されない幾何要素が存在する場合、エラーとする。 <p>各クラス単位に検査項目を示す。</p> <p>[GM_Surface]</p> <ul style="list-style-type: none"> orientationの値が + でない場合、エラーとする。 primitiveで参照するオブジェクトが自身でない場合、エラーとする。 GM_Surfaceを構成する複数のpatch要素に、同じGM_Polygonが2回以上出現する場合、エラーとする。 <p>[GM_OrientableSurface]</p> <ul style="list-style-type: none"> この型のオブジェクトが存在すれば、エラーとする。 <p>[GM_SurfaceBoundary]</p> <ul style="list-style-type: none"> interior要素に、同じGM_Ringが2回以上出現する場合、エラーとする。 <p>[GM_Ring]</p> <ul style="list-style-type: none"> generator要素に、GM_Curve又はGM_OrientableCurve以外のオブジェクトが出現する場合、エラーとする。 generator要素に、同じGM_Curve又は同じGM_OrientableCurveが2回以上出現する場合、エラーとする。 <p>[GM_Curve]</p> <ul style="list-style-type: none"> orientationの値が + でない場合、エラーとする。 primitiveで参照するオブジェクトが自身でない場合、エラーとする。 <p>[GM_OrientableCurve]</p> <ul style="list-style-type: none"> orientationの値が - でない場合、エラーとする。 primitiveで参照するオブジェクトの型がGM_Curveでない場合、エラーとする。 <p>[GM_LineString]</p> <ul style="list-style-type: none"> controlPointの数が2点未満の場合、エラーとする。 GM_LineStringの始点及び終点がindirectによって参照されていない場合、エラーとする。 GM_LineStringの始点及び終点以外の点がdirectによって参照されていない場合、エラーとする。 <p>[GM_PointRef]</p> <ul style="list-style-type: none"> point要素の参照先のオブジェクトがGM_Point以外である場合、エラーとする。 <p>[DirectPosition]</p> <ul style="list-style-type: none"> dimensionの値が2又は3以外である場合、エラーとする。 coordinateに記録される数値の個数がdimensionの値と異なる場合、エラーとする。 coordinateに記録される数値のセパレータが空白文字以外の場合、エラーとする。 	符号化仕様の XML スキーマに対する矛盾の割合 : 0%
	定義域一貫性	データ集合全体	<p>地物属性インスタンスの値が、応用スキーマに規定される定義域の範囲に含まれていない場合、その個数をエラーとして数え、その割合 (誤率) を計算する。</p> <p>誤率 (%) = (定義域外の値をもつ地物属性の数 / データ集合内の地物属性の総数) × 100</p>	地物属性の定義域一貫性のエラーの割合 : 0%

品質要求（続き）

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲 (上位型の地物は、 その下位型の地物も適用範囲に含む)	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
論理一貫性 (続き)	位相一貫性	データ集合全体	<p>XML 文書として記録されるデータ集合（地図情報レベル 2500 データ）がもつ位相属性及び位相を含む幾何属性の一貫性を検査し、エラーの割合（誤率）を計算する。 誤率（％）＝（位相一貫性のエラーの数 / 検査対象となるアイテムの総数）× 100</p> <p>空間スキーマプロファイルに対する検査項目</p> <p>[GM_Surface]</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数のGM_Polygonで構成されるGM_Surfaceにおいて、他のGM_PolygonとGM_Curveを共有しないGM_Polygonがある場合、一つの面を構成することにならないので、これをエラーとする。 複数のGM_Polygonで構成されるGM_Surfaceにおいて、patchを構成するGM_Polygonの構成点が他のGM_Polygonの内部に存在する（面のねじれをもつ）場合、エラーとする。 <p>[GM_Polygon]</p> <ul style="list-style-type: none"> GM_Polygonを構成する座標がすべて同一平面上に存在しない場合、エラーとする。 <p>[GM_SurfaceBoundary]</p> <ul style="list-style-type: none"> interior要素を構成するGM_Ringが、exterior要素を構成するGM_Ringと交差する場合、エラーとする。 interior要素を構成するGM_Ring同士が互いに交差する場合、エラーとする。 exterior要素を構成するGM_Ring同士が互いに交差する場合、エラーとする。 interior要素を構成するGM_Ringが、同じGM_SurfaceBoundaryのinterior要素のGM_Ringに包含される場合、エラーとする。 <p>[GM_Ring]</p> <ul style="list-style-type: none"> GM_Ringの始点及び終点以外で自己交差又は自己接触する点をもつ場合、エラーとする。 <p>[GM_Curve]</p> <ul style="list-style-type: none"> segementを構成する各線分の終点が次の始点と一致しない場合、これをエラーとする。但し、最後の線分は除く。 GM_Curveの始点及び終点以外で自己交差又は自己接触する点をもつ場合、エラーとする。 <p>[GM_LineString]</p> <ul style="list-style-type: none"> 2点又は3点のcontrolPointで構成されるGM_LineStringの始点と終点が同じGM_Pointを参照する場合、エラーとする。 GM_LineStringが自己交差若しくは始点及び終点以外で自己接触する点をもつ場合、エラーとする。 	位相一貫性のエラーの割合：0%
位置正確度	絶対正確度	基準点（図化機測定による標高点を除く） 座標成果がある地物	<p>データ集合（地図情報レベル 2500 データ）内の位置の座標と、より正確度の高い参照データの座標との誤差の標準偏差を計算する（誤差の母平均は、0とする。）。但し、遮蔽部分（不可視のデータ）は検査対象としない。</p> <p>水平位置の誤差の標準偏差 標準偏差 = $\sqrt{\frac{1}{n-1} \sum (xi-Xi)^2 + (yi-Yi)^2}$ xi：データ集合内の検査対象のデータの位置の X 座標 yi：データ集合内の検査対象のデータの位置の Y 座標 Xi：より正確度の高いデータの位置の X 座標 Yi：より正確度の高いデータの位置の Y 座標 n：サンプル数</p>	座標成果との標準偏差：0m [単位：メートル]
		道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、 鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、 建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、 構囲等、場地、植生、変形地		水平位置の標準偏差：1.75m 以内 [単位：メートル]
		等高線		標高の標準偏差：1.00m 以内 [単位：メートル]
		図化機測定による標高点	<p>標高の誤差の標準偏差 標準偏差 = $\sqrt{\frac{1}{n-1} \sum (hi-Hi)^2}$ hi：データ集合内の検査対象のデータの標高値 Hi：より正確度の高いデータの標高値</p>	標高の標準偏差：0.66m 以内 [単位：メートル]
		行政界		図上の水平位置の標準偏差：0.3mm 以内 [単位：ミリメートル] 但し、図郭四隅の残存誤差が0.2mm 以内であること。
	相対正確度	既成図数値化によって作成する地物 (上記の地物であっても、既成図数値化によって作成する場合は、この品質要求を適用する)		
	グリッドデータ位置正確度			

品質要求（続き）

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲 (上位型の地物は、 その下位型の地物も適用範囲に含む)	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
時間正確度	時間測定正確度			
	時間一貫性			
	時間妥当性			
主題正確度	分類の正しさ	公園、行政区、行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）と、参照データ（空中写真、現地調査資料、入力基図、既成図原図等の真とみなす元資料）との比較を行い、地物型が正しく特定されていないデータ数を数え、その割合（誤率）を計算する。 誤率（％）＝（地物型が正しく特定されていないデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数）× 100	地物型の分類のエラーの割合：0%
		道路施設、鉄道施設、建物、水域（河川・湖池等）	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）を 25m メッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての 25m メッシュに対する、分類の正しさのエラーを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 25m メッシュの良不良の判定は、検査対象となる 25m メッシュごとに、データ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、入力基図、既成図原図等の真とみなす元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行う。25m メッシュ内に地物型が正しく特定されていないデータが一つでも存在すれば、そのメッシュを不良と判定する。 誤率（％）＝（不良な 25m メッシュ数 / 検査した 25m メッシュの総数）× 100	地物型の分類のエラーを含む不良な 25m メッシュの割合：5%以内
		境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、図化機測定による標高点	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）と、参照データ（空中写真、現地調査資料、入力基図、既成図原図等の真とみなす元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行う。25m メッシュ内に地物型が正しく特定されていないデータが一つでも存在すれば、そのメッシュを不良と判定する。 誤率（％）＝（不良な 25m メッシュ数 / 検査した 25m メッシュの総数）× 100	地物型の分類のエラーを含む不良な 25m メッシュの割合：10%以内
	非定量的主題属性の正しさ	公園、行政区、行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）、行政区	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）と、参照データ（空中写真、公園及び行政区の元資料、座標成果等の真とみなす元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、データ集合内に存在する誤った地物属性インスタンス（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 地物属性“可視性”の値が正しくない場合。 ・ 地物属性“種別”の値が正しくない場合。 ・ 地物属性“名称”の値の綴りが正しくない場合。但し、当用漢字外の文字は、監督員が認める場合、代替可とする。 誤率（％）＝（地物属性のエラー数 / 検査した地物属性の総数）× 100	非定量的な主題属性のエラーの割合：0%
		境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、図化機測定による標高点	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）を 25m メッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての 25m メッシュに対する、誤った地物属性の値をもつ地物インスタンスを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 25m メッシュの良不良の判定は、検査対象となる 25m メッシュごとに、データ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等の真とみなす元資料）に含まれる個々のデータ（地物属性）同士の一対一の比較を行う。25m メッシュ内に地物属性にエラーをもつ地物インスタンスが一つでも存在すれば、そのメッシュを不良と判定する。次の場合、エラーとする。 ・ 地物属性“可視性”の値が正しくない場合。 ・ 地物属性“種別”の値が正しくない場合。 誤率（％）＝（不良な 25m メッシュ数 / 検査した 25m メッシュの総数）× 100	非定量的な主題属性のエラーを含む 25m メッシュの割合：10%以内
		地図情報レベル 2500 注記	データ集合（地図情報レベル 2500 データ）と、参照データ（既成図、現地調査資料等の真とみなす資料）に含まれる注記データの一対一の比較を行い、データ集合内に存在する注記データ（地図情報レベル 2500 注記インスタンス）のエラーの割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 地物属性“文字列”の値の綴りが正しくない場合。但し、当用漢字外の文字は、監督員が認める場合、代替可とする。 誤率（％）＝（注記のエラー数 / 検査した注記の総数）× 100	非定量的主題属性のエラーの割合：10%
定量的主題属性の正確度				

6.2. 評価手順

データ集合の適合性の判定は、次の手順に準拠する。

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲 (上位型の地物は、その下位型の地物も適用範囲に含む)	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
完全性	過剰	公園、行政区、行政界、基準点(図化機測定による標高点を除く)	全数検査	<p>地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ(地物インスタンス)を表示又は出力する。 データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 誤率=0% であれば“合格” 誤率>0% であれば“不合格”</p>
		道路施設、鉄道施設、建物、水域(河川・湖池等) 公園を除く都市施設パッケージの地物	抜取検査	<p>地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ(地物インスタンス)を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット(等しい条件下で作成されたデータの集まり)を形成する。 ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ(0.0625km²/メッシュ)の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2(1%分)は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2(1%分)は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する(適当なメッシュとなるまで繰り返す。)。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海、河川等の白部でないメッシュであること。 検査対象のデータ(地物インスタンス)を含むメッシュであること。 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。(修正の場合) <p>250m×250mの検査単位を25m×25mの100個の25mメッシュに分割し、データ品質評価尺度に基づき、25mメッシュの良/不良を判定する。</p> <p>25mメッシュの範囲にエラーがなければ“良” 25mメッシュの範囲にエラーが1件以上あれば“不良”</p> <p>データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p> <p>但し、一つの250mメッシュに適合品質水準を越える25mメッシュが存在する場合(不良な25mメッシュが特定の地域に偏って存在する場合)は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25km²に満たない場合(測量区域が12.5km²未満の場合)は、必ず0.25km²(250mメッシュ4つ)を検査する。</p>
		境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構田等、場地、植生、等高線、変形地、	抜取検査	<p>海、河川等の白部でないメッシュであること。 検査対象のデータ(地物インスタンス)を含むメッシュであること。 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。(修正の場合)</p> <p>250mメッシュの範囲にエラーがなければ“良” 250mメッシュの範囲にエラーが1件以上あれば“不良”</p> <p>データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p> <p>但し、一つの250mメッシュに適合品質水準を越える25mメッシュが存在する場合(不良な25mメッシュが特定の地域に偏って存在する場合)は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25km²に満たない場合(測量区域が12.5km²未満の場合)は、必ず0.25km²(250mメッシュ4つ)を検査する。</p>
		等高線	抜取検査	<p>適用範囲に含まれるデータ(等高線、地図記号又は注記)を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット(等しい条件下で作成されたデータの集まり)を形成する。 ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ(0.0625km²/メッシュ)の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2(1%分)は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2(1%分)は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する(適当なメッシュとなるまで繰り返す。)。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海、河川等の白部でないメッシュであること。 検査対象のデータ(地物インスタンス)を含むメッシュであること。 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。(修正の場合) <p>データ品質評価尺度に基づき、250mメッシュ内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p> <p>測量区域の2%が0.25km²に満たない場合(測量区域が12.5km²未満の場合)は、必ず0.25km²(250mメッシュ4つ)を検査する。</p>
地図記号、地図情報レベル2500注記	抜取検査	<p>海、河川等の白部でないメッシュであること。 検査対象のデータ(地物インスタンス)を含むメッシュであること。 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。(修正の場合)</p> <p>データ品質評価尺度に基づき、250mメッシュ内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p> <p>測量区域の2%が0.25km²に満たない場合(測量区域が12.5km²未満の場合)は、必ず0.25km²(250mメッシュ4つ)を検査する。</p>		

評価手順（続き）

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲 (上位型の地物は、その下位型の地物も適用範囲に含む)	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
完全性 (続き)	漏れ	公園、行政区、行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	全数検査	<p>地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示する。</p> <p>データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。</p> <p>計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>誤率=0% であれば“合格”</p> <p>誤率>0% であれば“不合格”</p>
		道路施設、鉄道施設、建物、水域（河川・湖池等）	抜取検査	<p>地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。</p> <p>データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ（0.0625k㎡/メッシュ）の検査単位に分割する。</p> <p>ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。</p> <p>検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。</p> <p>無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータを（地物インスタンス）含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>250m×250mの検査単位を25m×25mの100個の25mメッシュに分割し、データ品質評価尺度に基づき、25mメッシュの良/不良を判定する。</p> <p>25mメッシュの範囲にエラーがなければ“良”</p> <p>25mメッシュの範囲にエラーが1件以上あれば“不良”</p> <p>データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>“適合品質水準 誤率”であれば“合格”</p> <p>“適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p> <p>但し、一つの250mメッシュに適合品質水準を越える25mメッシュが存在する場合（不良な25mメッシュが特定の地域に偏って存在する場合は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。</p> <p>測量区域の2%が0.25k㎡に満たない場合（測量区域が12.5k㎡未満の場合）は、必ず0.25k㎡（250mメッシュ4つ）を検査する。</p>
		境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（等高線、地図記号又は注記）を表示又は出力する。</p> <p>データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ（0.0625k㎡/メッシュ）の検査単位に分割する。</p> <p>ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。</p> <p>検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。</p> <p>無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータ（等高線、記号又は注記）を含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>データ品質評価尺度に基づき、250mメッシュ内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>“適合品質水準 誤率”であれば“合格”</p> <p>“適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p> <p>測量区域の2%が0.25k㎡に満たない場合（測量区域が12.5k㎡未満の場合）は、必ず0.25k㎡（250mメッシュ4つ）を検査する。</p>
		等高線	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（等高線、地図記号又は注記）を表示又は出力する。</p> <p>データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ（0.0625k㎡/メッシュ）の検査単位に分割する。</p> <p>ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。</p> <p>検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。</p> <p>無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータ（等高線、記号又は注記）を含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>データ品質評価尺度に基づき、250mメッシュ内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>“適合品質水準 誤率”であれば“合格”</p> <p>“適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p> <p>測量区域の2%が0.25k㎡に満たない場合（測量区域が12.5k㎡未満の場合）は、必ず0.25k㎡（250mメッシュ4つ）を検査する。</p>

評価手順（続き）

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲 (上位型の地物は、その下位型の地物も適用範囲に含む)	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
完全性 (続き)	漏れ (続き)	図化機測定による標高点	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、図化機測定による標高点と、基準点及び等高線数値の注記のデータを表示又は出力する。データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>ロットを 2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西 250m、南北 250m のメッシュ（0.0625k m²/メッシュ）の検査単位に分割する。</p> <p>ロットごとに、ロット全体の面積の 2% の検査単位を抽出する。</p> <p>検査単位の 1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの 1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータ（図化機測定による標高点）を含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>データ品質評価尺度に基づき、250m メッシュ内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。</p> <p>“適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格”</p> <p>測量区域の 2% が 0.25 k m² に満たない場合（測量区域が 12.5k m² 未満の場合）は、必ず 0.25k m²（250m メッシュ 4 つ）を検査する。</p>
論理一貫性	書式一貫性	データ集合全体	全数検査	データ集合のファイルの書式が XML の文法（構文）に適合しているか、検査プログラム（XML パーサなど）によって評価する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
	概念一貫性	データ集合全体	全数検査	応用スキーマを表現する XML スキーマとデータ集合に矛盾がないか、検査プログラム（バリデータなど）によって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
	定義域一貫性	データ集合全体	全数検査	属性の値が、主題属性の定義域並びに地物の空間及び時間範囲の定義域の中にあるか、検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
	位相一貫性	データ集合全体	全数検査	位置の関係の一貫性が保たれているか、検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
位置正確度	絶対正確度	基準点（図化機測定による標高点を除く） 座標成果がある地物	全数検査	<p>データ品質評価尺度に基づき、適用範囲すべてのデータをサンプルとし、標準偏差を計算する。</p> <p>計算した標準偏差と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。</p> <p>標準偏差 = 0m であれば“合格” 標準偏差 > 0m であれば“不合格”</p>
		道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構田等、場地、植生、変形地	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>ロットを 2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西 250m、南北 250m のメッシュ（0.0625k m²/メッシュ）の検査単位に分割する。</p> <p>ロットごとに、ロット全体の面積の 2% の検査単位を抽出する。</p> <p>検査単位の 1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの 1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>250m メッシュごとに明瞭な 21 辺以上（2 点以上/辺）を抽出する。</p> <p>抽出した位置の座標と現地（または現地とみなす資料）の点検測量成果の誤差を測定する。</p> <p>データ品質評価尺度に基づき、サンプル（データ集合内の検査対象の座標すべて）の誤差の標準偏差を計算する。計算した標準偏差と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。</p> <p>“適合品質水準 標準偏差”であれば“合格” “適合品質水準 < 標準偏差”であれば“不合格”</p> <p>但し、250m メッシュ単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合（特定の地域の標準偏差に偏りがある場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。</p> <p>測量区域の 2% が 0.25 k m² に満たない場合（測量区域が 12.5k m² 未満の場合）は、必ず 0.25k m²（250m メッシュ 4 つ）を検査する。</p>

評価手順（続き）

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲 (上位型の地物は、その下位型の地物も適用範囲に含む)	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
位置正確度 (続き)	絶対正確度 (続き)	行政界	抜取検査	<p>既成図の図郭四隅の残存誤差を計測する。 図郭四隅の残存誤差が0.2mm以内であれば、以降の手順に従い、地物の空間属性の誤差の標準偏差を計測する。 地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ（0.0625k㎡/メッシュ）の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） 250mメッシュごとに明瞭な21辺以上（2点以上/辺）を抽出する。 抽出した位置の図上の座標と既成図上の座標との誤差を測定する。 データ品質評価尺度に基づき、サンプル（データ集合内の検査対象の座標すべて）の誤差の標準偏差を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格” <p>但し、250mメッシュ単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合（特定の地域の標準偏差に偏りがある場合は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25k㎡に満たない場合（測量区域が12.5k㎡未満の場合）は、必ず0.25k㎡（250mメッシュ4つ）を検査する。</p>
		既成図数値化によって作成する地物	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ（0.0625k㎡/メッシュ）の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） 250mメッシュごとに明瞭な10点以上を抽出する。 抽出した位置の標高と現地の水準測量成果（または現地とみなす資料）の誤差を測定する。 データ品質評価尺度に基づき、サンプル（データ集合内の検査対象の座標すべて）の誤差の標準偏差を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格” <p>但し、250mメッシュ単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合（特定の地域の標準偏差に偏りがある場合は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25k㎡に満たない場合（測量区域が12.5k㎡未満の場合）は、必ず0.25k㎡（250mメッシュ4つ）を検査する。</p>
		等高線	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ（0.0625k㎡/メッシュ）の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） 250mメッシュごとに明瞭な10点以上を抽出する。 抽出した位置の標高と現地の水準測量成果（または現地とみなす資料）の誤差を測定する。 データ品質評価尺度に基づき、サンプル（データ集合内の検査対象の座標すべて）の誤差の標準偏差を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格” <p>但し、250mメッシュ単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合（特定の地域の標準偏差に偏りがある場合は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25k㎡に満たない場合（測量区域が12.5k㎡未満の場合）は、必ず0.25k㎡（250mメッシュ4つ）を検査する。</p>
	図化機測定による標高点	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ（0.0625k㎡/メッシュ）の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） 250mメッシュごとに明瞭な10点以上を抽出する。 抽出した位置の標高と現地の水準測量成果（または現地とみなす資料）の誤差を測定する。 データ品質評価尺度に基づき、サンプル（データ集合内の検査対象の座標すべて）の誤差の標準偏差を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格” <p>但し、250mメッシュ単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合（特定の地域の標準偏差に偏りがある場合は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25k㎡に満たない場合（測量区域が12.5k㎡未満の場合）は、必ず0.25k㎡（250mメッシュ4つ）を検査する。</p>	
	相対正確度			
	グリッドデータ位置正確度			

評価手順（続き）

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲 (上位型の地物は、その下位型の地物も適用範囲に含む)	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
時間正確度	時間測定正確度			
	時間一貫性			
	時間妥当性			
主題正確度	分類の正しさ	公園、行政区、行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	全数検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準を比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p>
		道路施設、鉄道施設、建物、水域（河川・湖池等）	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ（0.0625k㎡/メッシュ）の検査単位に分割する。 ロット別に、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。 ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） 250m×250mの検査単位を25m×25mの100個の25mメッシュに分割し、分割したメッシュの良/不良を判定する。 25mメッシュの範囲にエラーがなければ“良” 25mメッシュの範囲にエラーが1件以上あれば“不良” データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格” 但し、一つの250mメッシュに適合品質水準を越える25mメッシュが存在する場合（不良な25mメッシュが特定の地域に偏って存在する場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25k㎡に満たない場合（測量区域が12.5k㎡未満の場合）は、必ず0.25k㎡（250mメッシュ4つ）を検査する。</p>
	境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、図化機測定による標高点	抜取検査	<p>地物属性“種別”、“可視性”又は“名称”の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準を比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p>	
	非定量的主題属性の正しさ	公園、行政区、行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）、行政区	全数検査	<p>地物属性“種別”、“可視性”又は“名称”の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準を比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p>

評価手順（続き）

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲 (上位型の地物は、その下位型の地物も適用範囲に含む)	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
主題正確度 (続き)	非定量的主題属性の 正しさ (続き)	境界補助線、道路境界・中心線、道路施設境界・中心線、鉄道境界・中心線、鉄道施設境界、建物境界、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、図化機測定による標高点	採取検査	<p>地物属性“種別”又は“可視性”の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>ロットを 2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西 250m、南北 250m のメッシュ（0.0625k m²/メッシュ）の検査単位に分割する。ロット別に、ロット全体の面積の 2% の検査単位を抽出する。</p> <p>検査単位の 1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの 1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>250m × 250m の検査単位を 25m × 25m の 100 個の 25m メッシュに分割し、分割したメッシュの良 / 不良を判定する。</p> <p>25m メッシュの範囲にエラーがなければ“良”</p> <p>25m メッシュの範囲にエラーが 1 件以上あれば“不良”</p> <p>データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>“適合品質水準 誤率”であれば“合格”</p> <p>“適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格”</p> <p>但し、一つの 250m メッシュに適合品質水準を越える 25m メッシュが存在する場合（不良な 25m メッシュが特定の地域に偏って存在する場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。</p> <p>測量区域の 2% が 0.25 k m² に満たない場合（測量区域が 12.5k m² 未満の場合）は、必ず 0.25k m²（250m メッシュ 4 つ）を検査する。</p>
		地図情報レベル 2500 注記	採取検査	<p>属性“文字列”の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>ロットを 2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西 250m、南北 250m のメッシュ（0.0625k m²/メッシュ）の検査単位に分割する。ロットごとに、ロット全体の面積の 2% の検査単位を抽出する。</p> <p>検査単位の 1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの 1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>データ品質評価尺度に基づき、250m メッシュ内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>“適合品質水準 誤率”であれば“合格”</p> <p>“適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格”</p> <p>測量区域の 2% が 0.25 k m² に満たない場合（測量区域が 12.5k m² 未満の場合）は、必ず 0.25k m²（250m メッシュ 4 つ）を検査する。</p>
	定量的主題属性の 正確度			

7. データ製品配布

7.1. 配布形式情報

7.1.1. 符号化仕様作成のためのタグ一覧

符号化仕様のためのタグ一覧は附属書 1 を参照。

7.1.2. 符号化仕様

符号化仕様は附属書 2 を参照。

なお本仕様書（案）では，空間スキーマプロファイルや時間スキーマプロファイルなど，地理情報の標準規格の符号化仕様も附属書 2 standardschema.xsd として規定している。この標準規格の符号化仕様は，JPGIS から提供される符号化仕様と同じ構造をとっているため，将来的には名前空間を置き換えることにより JPGIS へと移行することが可能となる。

7.2. 配布媒体情報

データ集合及びメタデータを格納する媒体は特記仕様書の通りとする。

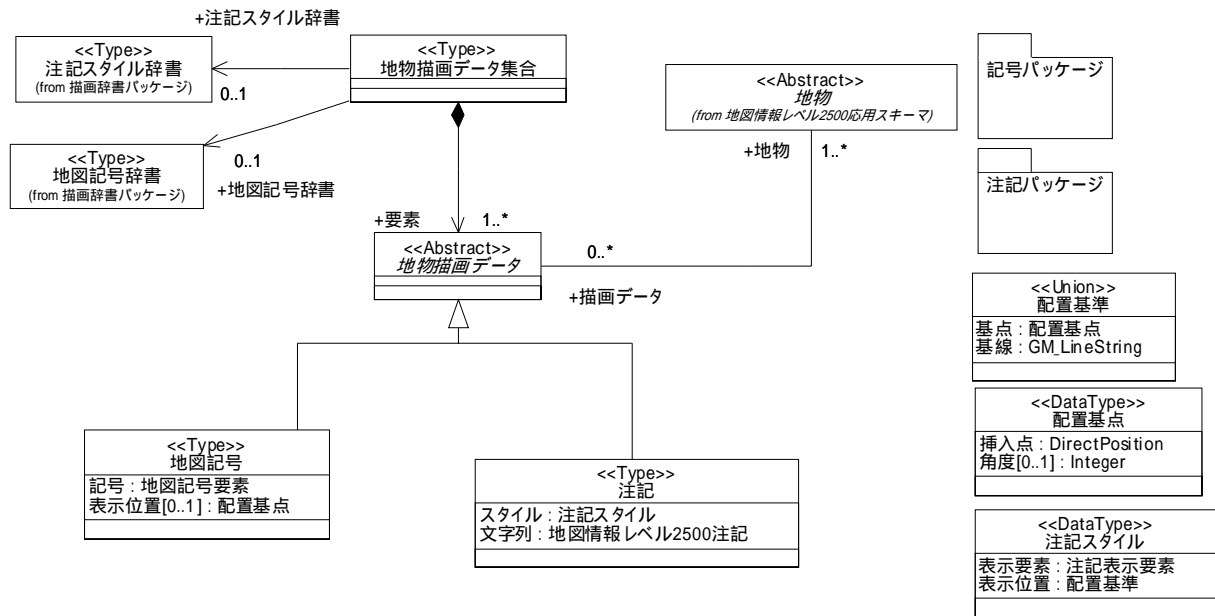
8. メタデータ

地図情報レベル 2500 データのメタデータは「 JMP2.0 」を採用する。

9. 描画のための辞書とカタログ

9.1. 描画データスキーマ

描画データスキーマUMLクラス図



地物描画データ集合

国土基本図の描画に関する情報のうち、インスタンスごとに必要な情報の集合

上位クラス:

抽象/具象区分: 具象

属性:

関連役割:

地図記号辞書[0..1]: 地図記号辞書

描画データ集合に含まれる地図記号が参照する地図記号要素を定義する辞書。

注記スタイル辞書[0..1]: 注記スタイル辞書

描画データ集合に含まれる注記が参照する注記表示要素を定義する辞書。

要素[1..*]: 地物描画データ

描画データ集合に含まれる地物ごとに必要となる描画データへの結合。

地物描画データ

地物の描画に必要な情報のうち、地物がもつべきもの

上位クラス :

抽象/具象区分 : 抽象

属性 :

関連役割 :

地物[1..*]: 地物
描画のもととなる地物への参照。

地図記号

地図記号の表示に必要な情報のうち、地物がもつべきもの

上位クラス : 地物描画データ

抽象/具象区分 : 具象

属性 :

表示位置[0..1]: 配置基点
地図記号要素を表示するための位置。地物の空間属性が示す位置から、1.75m以内に存在する。配置基点によって、座標値と角度を指定する。記号が線記号または面記号の場合は定義しない。

記号: 地図記号要素
表示したい地図記号。地図記号辞書に定義された地図記号要素から選択し、参照する。

関連役割 :

地物[1..*]: 地物
描画のもととなる地物への参照。

注記

中期の表示に必要な情報のうち、地物がもつべきもの

上位クラス : 地物描画データ

抽象/具象区分 : 具象

属性 :

スタイル: 注記スタイル
表示したい注記のスタイル及び表示位置。。

文字列: 地図情報レベル2500注記
注記として表示したい文字列。地図情報レベル2500注記の「属性：名称」の値。

関連役割 :

地物[1..*]: 地物
描画のもととなる地物への参照。

注記スタイル

地物がもつべき注記の表示に必要な情報のうち、注記の表示スタイルに関する情報。

上位クラス:

抽象/具象区分: 具象

属性:

表示要素: 注記表示要素

注記のスタイル。注記スタイル辞書に定義された注記表示要素から選択し、参照する。

表示位置: 配置基準

注記の表示位置。挿入点と角度を指定する、または配置する線分を指定する。対象物との関係位置が明確であり、かつその注記によって重要な地形呼び地物等を抹消しない位置であること。

配置基準

文字列が直線配置される場合は、文字列の基点を指定し、任意曲線上に配置される場合は、基線を指定する。

上位クラス:

抽象/具象区分: 具象

属性:

基点: 配置基点

文字列の基点となる点。挿入点と角度からなる。地図記号のための配置基点の場合は、地物の水平位置と一致すること。

基線: GM_LineString

文字列を配置するための基線となる線。DirectPositionによって構成される。

配置基点

注記または地図記号を挿入する点

上位クラス:

抽象/具象区分: 具象

属性:

挿入点: DirectPosition

地物の空間属性がGM_Pointの場合は、GM_Point が示す位置と一致しなくてはならない。

角度: Integer

注記または地図記号を回転させる角度。北をY軸東をX軸とし、X軸からの右回りの角度をいう(単位: 度)

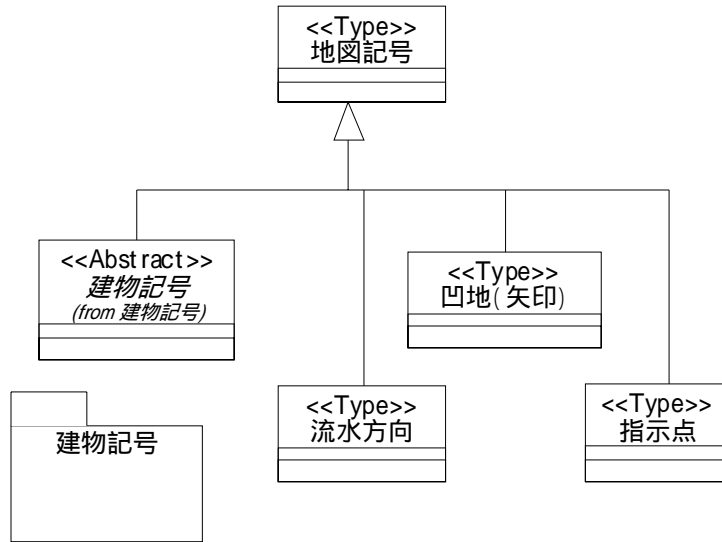


図 1 記号パッケージ UML クラス図

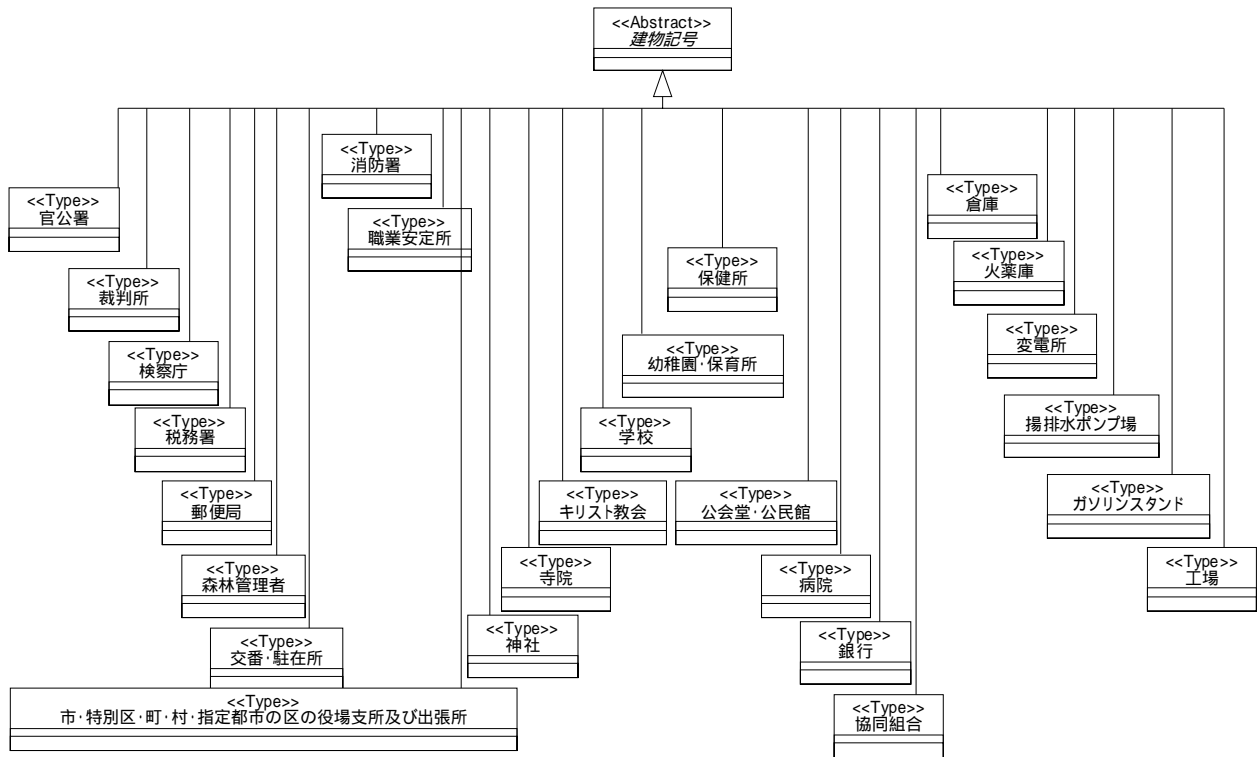


図 2 建物記号パッケージ UML クラス図

注記パッケージ

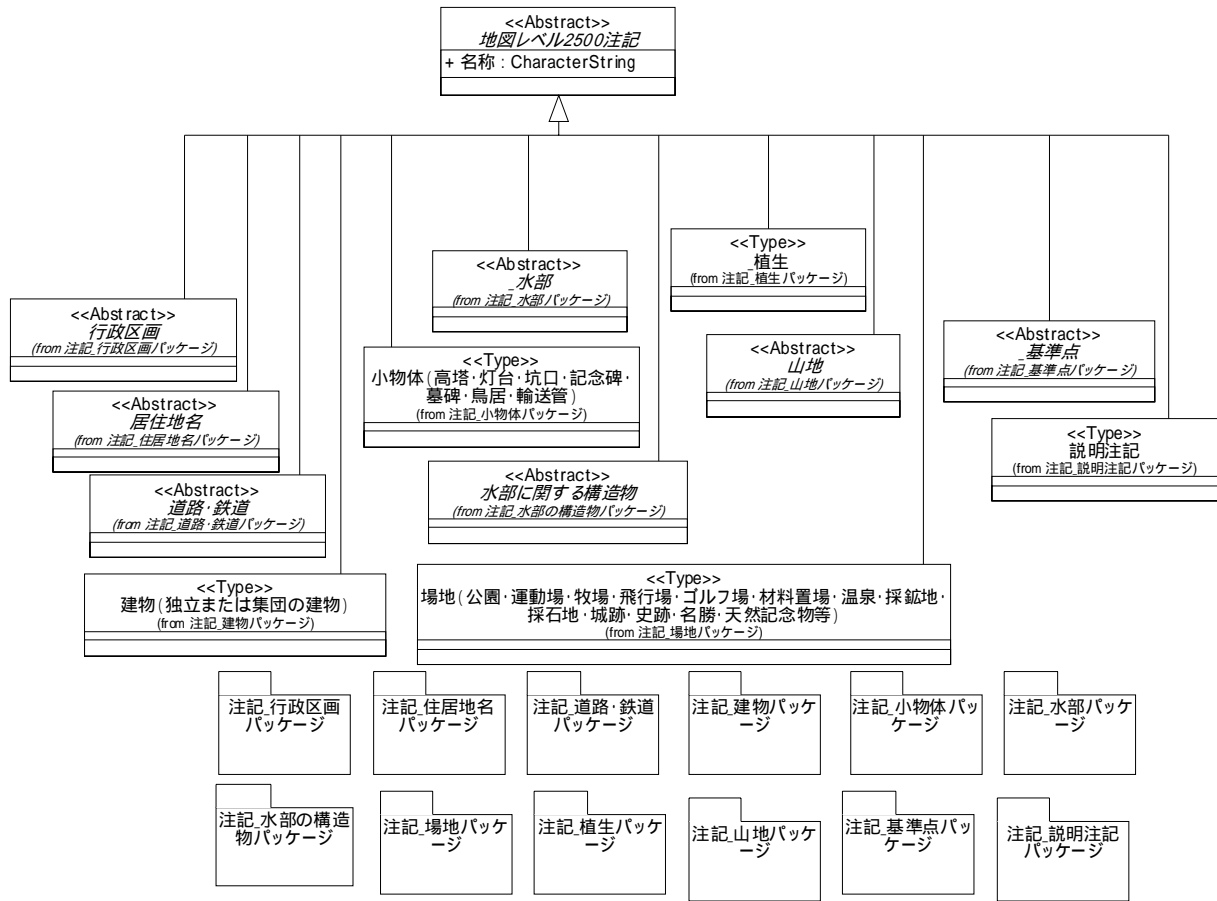


図 3 注記パッケージ UML クラス図

注記_行政区画パッケージ

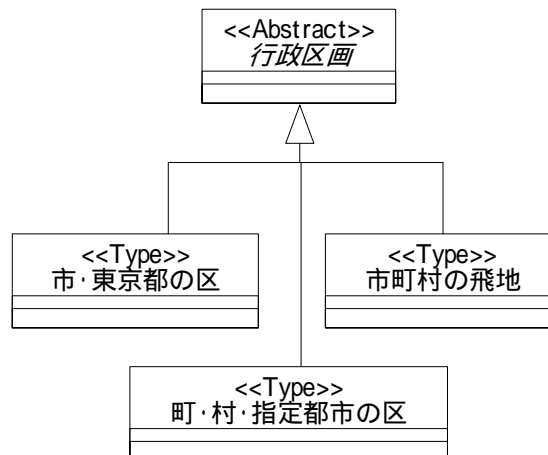


図 4 注記_行政区画パッケージ UML クラス図

注記_住居地名パッケージ

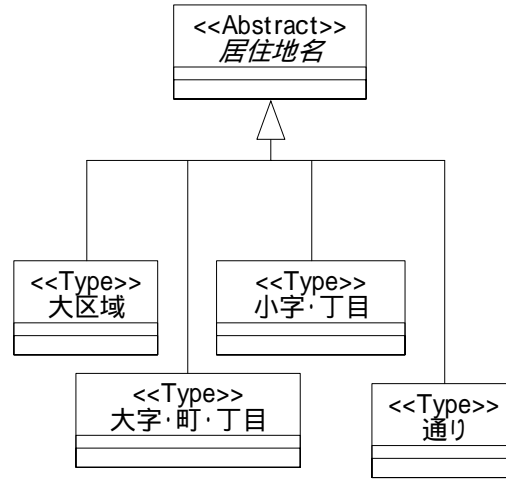


図 5 注記_住居地名パッケージ UML クラス図

注記_道路・鉄道パッケージ

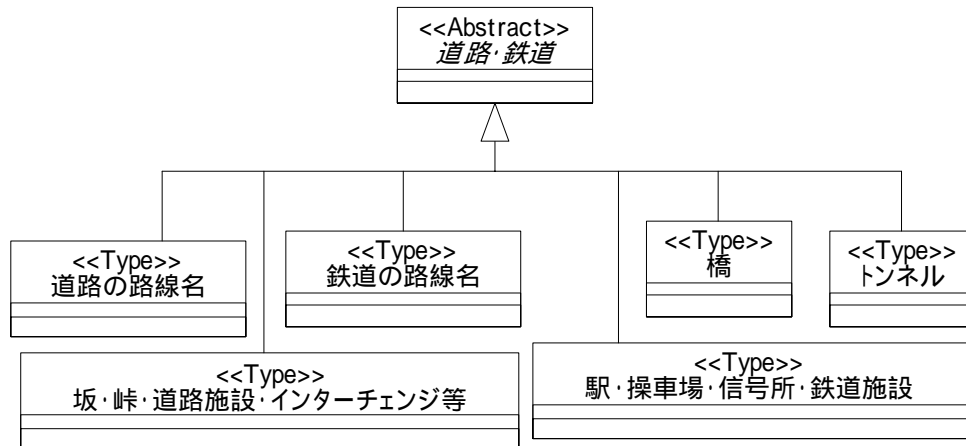


図 6 注記_鉄道・道路パッケージ UML クラス図

注記_建物パッケージ

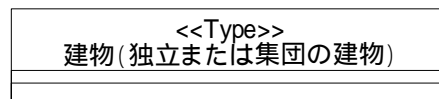


図 7 注記_建物パッケージ UML クラス図

注記_小物体パッケージ

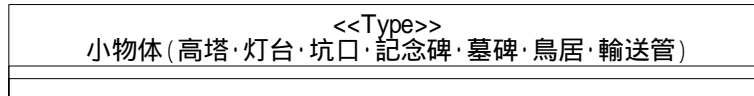


図 8 注記_建物パッケージ UML クラス図

注記_水部パッケージ

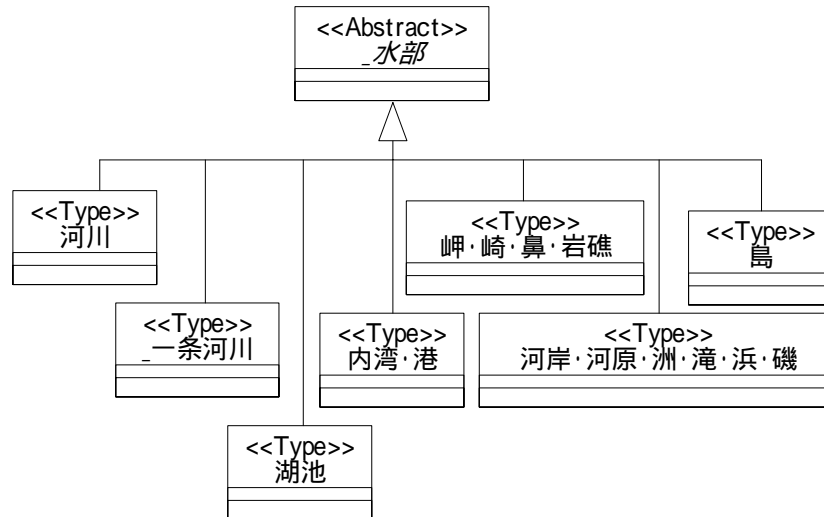


図 9 注記_水部パッケージ UML クラス図

注記_水部の構造物パッケージ

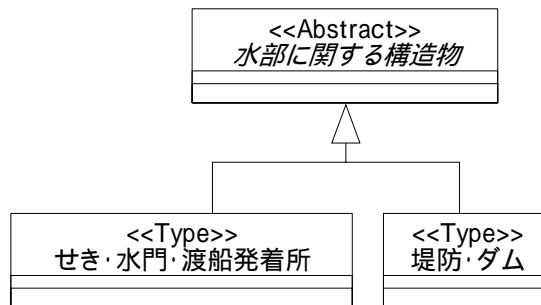


図 10 注記_水部の構造物パッケージ UML クラス図

注記_場地パッケージ

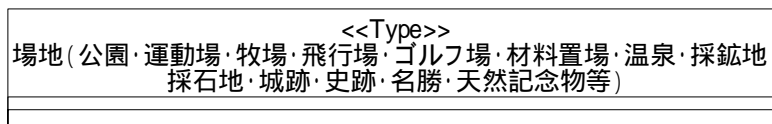


図 11 注記_場地パッケージ UML クラス図

注記_植生パッケージ

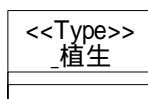


図 12 注記_植生パッケージ UML クラス図

注記_山地パッケージ

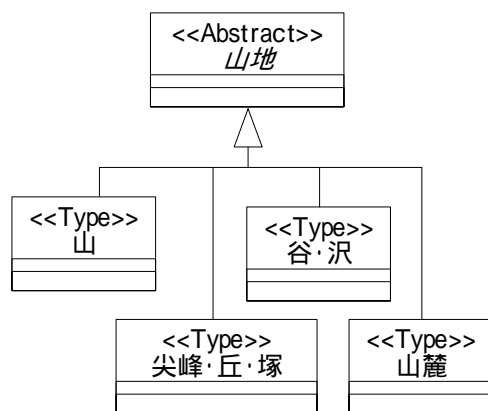


図 13 注記_山地パッケージ UML クラス図

注記_基準点パッケージ

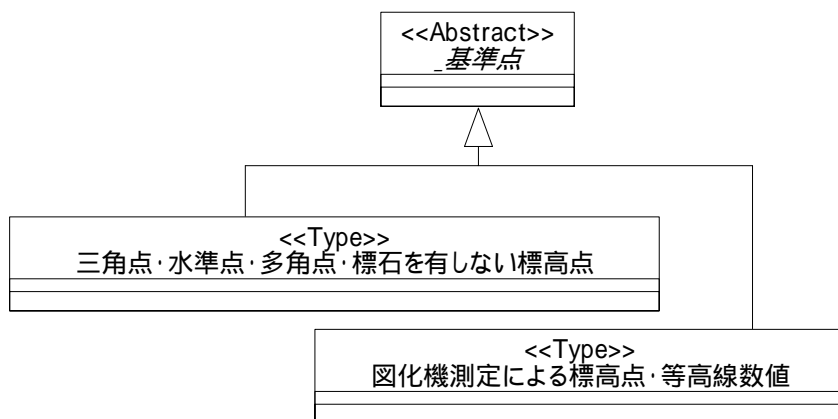


図 14 注記_基準点パッケージ UML クラス図

注記_説明注記パッケージ

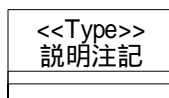


図 15 注記_説明注記パッケージ UML クラス図

9.2. 描画のためのタグ一覧

描画のためのタグ一覧は附属書 3 を参照。

9.3. 描画のための符号化仕様

描画のための符号化仕様は附属書 4 を参照。

9.4. 描画カタログ

描画カタログは附属書 5 を参照。